

昼食後に歯磨きをする児童。清潔への意識も高まり、先生に指示されなくても自発的に歯を磨く子どもも多い。



毎日、**歯磨き**するよ

協調性  
×  
小学校

# 「特活」の波 エジプトに広がる

副校長のサミラ・ヨウセフさん(中央)と、日本のアニメをヒントにサミラさんが手作りした同校のオリジナルキャラクター「スゴイクン」(右)と「ステキちゃん」(左)。着ぐるみが歯磨きや手洗いのデモンストレーションを行い、子どもたちの興味を高める。



日本式教育の導入・普及を推進するエジプト教育・技術教育省の「プロジェクト事務局」とJICA関係者のみなさん。右端が瀬戸口暢浩さん。



EJSハダエック  
オクトーバー校

EJS35校中最大規模で、現在、幼稚園1~2年生と小学1年生の約400人が在籍。将来的には高校3年生までが学べる教室数がある。エジプトでは、幼稚園(2年制)が小学校以上と併設されるのが一般的。

これまでエジプトでは、学力偏重の詰め込み型教育が一般的で、保護者もそうした教育を望んでいた。先生は高圧的で、知識を教えるだけの一方通行。学校不足から

## 詰め込み型教育から脱却 自主的に行動する

この詰め込み型教育では、学力偏重の詰め込み型教育が一般的で、保護者もそうした教育を望んでいた。先生は高圧的で、知識を教えるだけの一方通行。学校不足から

掃除で愛着が生まれる  
椅子を机の上にあげて床を掃いたり、洗面所で歯磨きしたり、朝の会で出欠を取る先生を日直当番の児童がお手伝いしたり。...

1クラスに70~80人もの児童・生徒が詰め込まれることもあり、学びにくい環境だった。...



協調性を育む/  
**日本式**

# 「日本式教育」で、子どもたちが変わる!

学級会、日直、掃除……。日本の学校で当たり前に行われている「特活(特別活動)」を中心とする日本式教育の実践が、エジプトで広まりつつある。...

Arab Republic of Egypt

## エジプト

国名: エジプト・アラブ共和国  
 首都: カイロ  
 通貨: エジプト・ポンド(LE)、ピアストル(PT)  
 人口: 9,304万人(2017年、エジプト中央動員統計局)  
 公用語: アラビア語

義務教育での学力偏重、学級あたりの生徒数の増加、高等教育では教員一人あたりの過剰な学生数、実践力・研究能力の不足、卒業生の就職率の低下などが問題となり、全体的な教育の向上に国を挙げて取り組んでいる。

首都: カイロ

みんなで教室の掃除をする。自分たちが使う場所は自分たちできれいにするという社会性が身につく、それが子どもたちから家庭へと広がっている。



上: 青年海外協力隊員の関野真理さん(右奥)が活動する学校での小学1年生の学級会。関野さんは、エジプト人の先生、司会や書記役の児童たちへのアドバイスを徹していた。「私の派遣期間はもうすぐ終わるので、それまでに彼らだけで学級会ができるようにするのが目標です」。左: すっかり仲良くなった関野さん(中央)と子どもたち。



右: EJSの幼稚園クラスで取り入れられている「遊びを通じた学び」。二人で力を合わせてボールを運ぶことで、協調性を育む。左: 使った道具や教科書はきちんと自分のロッカーに片づけ。日ごろの掃除や整理整頓の積み重ねが、普段の行動にも表れるようになった。

COLUMN 高等教育分野にも日本式教育を導入

2010年、エジプト日本科学技術大学(E-JUST)が開校し、高等教育分野での協力がスタート。それまでのエジプトでの多人数、理論中心の工学教育に対して、少人数による実践的な日本式工学教育を導入した。

また、17年4月からは日本の工業高校にあたる技術高校の教育改善プロジェクトが始まった。技術高校卒業者の就職率が低いことから、基礎的なハードスキルとして正確な製品製作能力を高めると同時に、時間を守るなどの規律、道具を整理整頓する、作業着やゴーグルをきちんと着用するなどの安全性認識、コミュニケーションなど社会人としての基礎的な能力を高め、企業に求められる人材を育成する。

実習を行うオパール技術高校機械科の生徒。



ているJICA専門家の橋本和明さんは、「エデュケーション2.0では、学力だけではなく、生きていく上でのさまざまな問題や要求に対処できるライフスキルの育成も重視しています。特活は学級・学校という身近な社会での活動を通じ、子どもたちにより良い人間関係の形成や主体的な社会参画、集団の中での自己実現が目標で、エジプトが進めている教育改革とも親和性があります」と話す。

「ミニ特活普及に取り組んでいるのがJICA海外協力隊の隊員たちだ。ギザ市の公立小学校では、隊員の関野真理さんが学級会の指導に当たっていた。テーマは「クラス全員で何の遊びをするか」。子どもたちにアンケートをとり、サッカー、縄跳び、かくれんぼなど六つの候補を出して話し合い、最終的に残った四つから多数決で選んだ。

「今までは受け身で授業を聞き、答えを言うだけの児童が多かったのですが、学級会では何を言っても先生に叱られないし、成績に関係なく、「私はこれがしたい、それはこういう理由だ」と自分の意見が言えます。一人ひとりの意見をみんなが認めてくれる雰囲気づくりを大切にしたいと思っています」と関野さんは語る。

もちろん、特活は協力隊員の活動だけで広がるものではない。教員への研修と、研修を担当する教育省のスタッフの育成が課題だ。それでも、エジプトの教育現場の未来は明るい。瀬戸口さんは言う。「最近EJSでは、学校が楽しくて親が迎えに来ても帰らたくないという子どもたちもいるそうです。これからも、子どもたちに少しでも学校が楽しいと思ってもらえるように協力していきたいですね」

# EJSでの「日本式」な活動

JICA技術協力プロジェクトでは、学力だけでなく人格も育む教育を目指して、下記の項目をはじめとする日本式教育の特徴的な取り組みの普及を進めている。

## 1 学級会



行事などさまざまなテーマを児童の話し合いで決める。自分の意見を主張し、相手の意見も尊重できるようにする。

## 2 学級指導



手洗いや歯磨きなどの生活指導、あいさつや友達を思いやる心の必要性を認識し、自ら行動する力を身につける。

## 3 日直



プリントの配付や回収、照明のオン・オフなどの仕事を担当。男女一人ずつで、王冠風の帽子をかぶるのがエジプト流。

## 4 遊びを通じた学び



遊びを通じて、仲間を思いやる気持ちやコミュニケーション力、想像力を養う。EJSでは幼稚園児のみが対象。

## 5 掃除



教室や机を自分たちの手できれいに。自宅や外出先でも周りをきれいにする意識が育まれる。

## 6 保護者参加活動



保護者が遠足や誕生会などの行事を手伝う。エジプトの公立学校では、保護者が学校の活動を手伝う機会はほとんどなかった。

## 7 朝自習



毎朝集中して自主学習をすることで、一日の始まりの心の準備、自主学習の習慣づけ、基礎学力の向上などを目的とする。

## 8 朝の会・帰りの会



生徒・児童の出欠や健康状態を確認。一日の始まりと終わりを明らかにする目的もある。

## 9 職員会議・校内研修



職員会議や、たがいの授業を参観し助言し合う授業研究型の校内研修など、学校運営面にも日本式の要素を取り込んでいる。

\*学級会、学級指導、日直は「ミニ特活」として小学校1年生のカリキュラムに組み込まれ、導入が進められている。

### 世界初の挑戦 特活をエジプト全土へ

社会的な注目を集める日本式教育の導入は、さらに加速。エジプト教育・技術教育省は「エデュケーション2.0」と呼ばれる教育改革の一環として、昨年9月から全国約1万8000の小学校に適用される1年生の新カリキュラムに学級会、学級指導、日直の三つからなる「ミニ特活」を導入。日本以外の国で特活を全国規模で導入したのは、エジプトが世界初の事例だといわれている。教育省でEJEPの取りまとめを支援し

「車は車線を守らず、ごみを平気で道端に捨てるような人もまだ多いエジプト社会で、特活の目的がどれくらいわかってもらえるのか、われわれとしても不安でした。しかし、子どもたちは自ら進んで歯磨きや掃除をしています。また親にごみのポイ捨てを注意する子もいるという話を聞き、人に伝えられるくらい自分のものになっているという事に驚きました」と瀬戸口さん。

教員たちにも変化が生まれ、他の学校との勉強会を開くなど積極的に日本式教育を学ぼうという姿勢が現れてきている。こうした取り組みやEJSの開校はニュースでも大きく取り上げられ、エジプト全体でも日本式教育は高い関心を集めている。

## Special Interview

# 日本式教育でエジプトを 引っ張っていく人材を育てたい

元高等教育・科学技術大臣 ハニー・ヒラールさん



ハニー・ヒラールさん  
2005年から約6年間、エジプトの高等教育・科学技術大臣を務める。08年に始まったエジプト日本科学技術大学(E-JUST)プロジェクト、16年2月に発表されたエジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)、さらに大エジプト博物館のプロジェクトなどで長年にわたりエジプト・日本間の橋渡し役として貢献し、18年にはJICA理事賞を受賞した。

エジプトで日本式教育が注目されるようになったきっかけは？  
最初は大学など高等教育分野で日本式教育が優れていることが注目され、2009年にE-JUSTの設立で合意し、日本の協力が始まりました。その後、小学校など基礎教育の分野でも日本が先進的だということがわかり、15年から導入を見据えた基礎調査が始まりました。

なぜエジプトで日本式教育が必要なのでしょう？  
日本式教育は子どもたちの人格形成、生活習慣に大きな影響を与えます。実は私が子どものころは、エジプトも特活のような活動をやっていました。教室の掃除をしたり、週ごとにクラスのリーダーを立てたり、音楽、体育の授業もありました。おかげで私は子どものころ身につけた習慣がまだ残っています。自分の部屋やトイレも自分で掃除するし、約束の時間も守ります。子どものころからやってきたから、そうしないと気持ち悪く感じるのです。

どうしてそういう教育が続かなくなったのでしょうか？  
子どもの数の増加にインフラの整備や質の高い教員の確保が追いつかず、また教員の給料も下がってモチベーションが上がらず、全体的に教育の質が低下したからだと思います。

ヒラールさんは日本の学校を視察されたそうですね。

15年10月に日本を訪問し、小学校と高校を視察しました。印象的だったのは、子どもたちが外履きから上履き履き替えていること。学校を大切にす意識を育む行動だと思いました。また、われわれが授業を見に行っても大騒ぎにならず、集中していて、規律をきちんと守っているなど感じました。

エジプト日本学校(EJS)開校はなぜ必要だったのでしょうか？  
昨年9月から一般の小学校のカリキュラムにも特活が組み込まれましたが、そうした日本式教育を、校舎などの施設面も含めて周りの学校にきちんと広げていくため、EJSにはモデルとしての役割を期待しています。

日本式教育の導入で、期待していることは？  
今エジプトにとって一番重要なのは質の高い人材育成で、それがすべての問題を解決する基礎だと思います。過去にはエジプトにも優秀なエンジニアや医師、さまざまな分野で優れたリーダーがいました。しかし、今の教育ではそうした人材を育てるのは難しい面があります。特活など日本式教育の特徴を生かしながら、少しでも教育環境が改善されることを願っています。そうして将来、コミュニケーションや企業のリーダー、教師や指導者など社会を担う人材が育ち、この国を引っ張ってほしいと思います。

協調性  
×  
保育園

## 遊びから学ぶ、 子どもも中心の保育へ



砂場遊びは、子どもの想像力、科学的関心、体や手指の運動機能の発達を促すと考えられている。プロジェクトを通じて、これまで約20の保育園に砂場が導入された。



右：教室の四隅に「ごっこコーナー」「積み木コーナー」「絵のコーナー」などを設け、子どもたちは自分がやりたい遊びを自由に選べる。左：「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」チーフアドバイザーの神谷哲郎さん。

日本式教育は保育園にも広がっている。そもそもエジプトには1998年から約20年間、のべ70人以上の保育・幼児教育分野の青年海外協力隊員が派遣され、「遊びを通じた学び」を広めてきた背景がある。

その活動を引き継ぎ、EJEPの締結によって、2017年6月に「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」がスタート。保育園を対象としたJICA初の技術協力プロジェクトで、50の保育園をモデル園として、コーナー遊びや砂場遊びといった遊びを通じて「学び」の普及に取り組んでいる。

プロジェクトのチーフアドバイザー神谷哲郎さんは、エジプトでは「子ども中心の保育」が必要だという。「エジプトでは、園児たちが先生の指示のままに過ごし、乳児は寝かされて、ご飯を食べさせるだけという保育がまだまだ多い。

保護者も子どもをあずかってくれれば良いという考えです。このプロジェクトでは、子どもたちが五感を使って自由に遊ぶことで脳を刺激し、学んでいく保育をしていこうと提案しています。

きめ細かな保育を行うために、保育士と保護者の意思疎通を図る取り組みにも力を入れている。「エジプトの保育園はお昼寝がないので連絡帳を書く時間がありませんでした。そこでボードで日々の活動を伝えたり、保育園通信を配ったり、定期的に保護者とのミーティングを開くことを推進しています」と神谷さん。さらに保育への保護者の参加を促すべく、「食育」「親子体操」「絵本の読み聞かせ」の研修会を実施している。

神谷さんは、保育の質を上げるには保育士の地位向上も不可欠だと訴える。「エジプトの保育士には日本のような国家資格がなく、地位が低い。給料も低いので、離職率が高いんです」。そこでプロジェクトでは、現役保育士への研修を実施し、昨年10月に74人に修了証を授与。今後同様の研修を続ける計画で、将来的には、保育士の認証制度の整備も重要となる。

日本式の子どもの中心の保育を実践することで、エジプトの保育があずける場から学ぶ場へと変わりつつある。